

外務大臣賞

サンタではなく仲間として

京都聖母学院中学校 3年

田中 涼々音

「寄付をすることで貧しくなる」この言葉は私に驚きと、そして現地の子たちにとって本当に必要なものは何なのかということ深く考えるきっかけをくれました。

私たちの学校では毎年クリスマスに、インドボイスタウンというインドにある貧しい子供たちのための福祉施設へクリスマスカードを送っています。一年に一度のその時、私たちはインドの子の「サンタさん」になるのです。その活動をしていく中でもっとサンタとして現地の子にあげられるものはないのだろうかと思い、インターネットで調べてみることにしました。そしてたまたま見つけた記事に書かれていたのが最初の言葉でした。現地の子を助けるためにする寄付で貧しくなるとはどういうことだろうかと思い、読み進めていくと記事にはこういったことが書かれていました。

「寄付によってお金を得た子供たちはそのお金を使い果たした時またお金を求めることになる」それならまた寄付をしてあげればいいじゃないか考える人がいるかもしれません。ですがそうしてしまうと使い果たしたらまたもらうという悪循環が生まれ結局自分自身で稼ぐ方法を学べない、つまり根本的な問題は解決できないのです。「お金よりも教育を」記事はそう締めくくられていました。

もちろん、寄付によって救われている命もあると思います。それに私が読んだ記事が現状の全てというわけでもありません。ただこの記事を読んだことで私は自身の考えが自己満足なものだったと気づかされました。自分はサンタだから貧しくて困っている人たちにプレゼントをしようという気持ちでは、一生本当に必要なものを届けることはできないでしょう。第一に私はサンタではなく、一人の中学生。インドに住んでいる子たちと一緒に子供、そして同じ地球に住む仲間なのです。だから何かを与えるという立場ではなくて仲間として彼らや彼女たちが困っているなら支えたいと強く思います。そのためにはまず現状を知る必要があります。何に困っているのかをきちんと分かってから動かないといけませんから。私は今すぐ現地に行くことはできませんが、いつか行けるようになった時のためにたくさんの人と話し、意見を交換し、考えと視野を広げていきたいです。もう自己満足的なものではなく自分なりに考えて考えて考えぬいて仲間と一緒にどこでも安心して暮らせる世界をつかっていきたいです。「世界中が平和な世の中」それは大それた夢のようですが、もし実現できたら何よりも尊く大切なプレゼントになると思います。

今年も私の学校ではクリスマスカードを作ります。その時、全校生徒はサンタさん……ではなく、仲間として。大切な仲間に向けてクリスマスカードを送ります。私は彼らに最大の愛をこめて

「Merry Christmas」

と、カードいっぱいを書く予定です。